

明治学院大学社会学部附属研究所 調査研究部門主催 講演会  
多様なソーシャル・キャピタルはいかにして手に入るのか

— カナダにおける知見 —

*Varieties of Social Capital and Their Sources in Canada*

講師：ボニー・エリクソン (Bonnie Erickson) トロント大学 (社会学科教授)

日時：2008年6月26日(木曜) 18時15分～19時30分

場所：明治学院大学 白金校舎 大学3号館 3203 教室

主催：明治学院大学 社会学部附属研究所 (調査・研究部門)

※当日の様子を簡単にご報告します。

**[Bonnie Erickson 教授プロフィール]**

1973年にハーバード大学 (Social Relations) で Ph.D. を取得。北米におけるネットワーク分析の一拠点、トロント大学で1975年より教鞭を執る (1985年より社会学科教授)。社会的ネットワークに関する理論・方法論および実証的研究で優れた成果を上げている。とりわけ、個人の社会的ネットワークが文化 (知識、態度、イデオロギーなど) とどのように関連しているかという問題を追究してきた。1996年の論文“Culture, Class, and Connections” (*American Journal of Sociology*, Vol. 102) がアメリカ社会学会・文化部会最優秀論文賞を受賞。近年は、つながりのある相手の「多様性」に着目したソーシャル・キャピタル (社会関係資本) 概念を使った研究を展開。その成果の一部は、Nan Lin との共編著 *Social Capital: An International Research Program* (Oxford University Press, 2008) として出版された。

**[講演要旨]**

いま、社会科学の多くの領域で注目される「ソーシャル・キャピタル (社会関係資本)」という概念は、研究者によって実に様々に定義づけられている。ボニー・エリクソン教授は、個人のネットワーク内にどのような社会的位置の相手が含まれるかを明らかにする質問項目 (position generator) を使い、それによって測定された諸側面からソーシャル・キャピタルの概念を構築し、理論を展開する点でユニークである。彼女は、職業・社会階級・ジェンダーなどの点でいかに多様な知人をもっており、その相手との関係を通していかに多様な資源に接触可能かという観点からソーシャル・キャピタルを捉えようとする。この講演では、こうした考え方と方法について解説し、人々はいかにして多様な社会関係資本を手に入れているかをカナダでの調査結果を紹介しながら論じられた。

### — 当日の様子 —

当日は曇りがちでときおり小雨がふるようなあいにくの天候でしたが、学内・学外、分野を問わず多くの方に参加していただくことができました。関西など遠方からのご参加もありました。ソーシャル・キャピタル論やネットワーク論に興味のある方々に多数ご参加いただくことができ、有意義な講演会となりました。以下では、講演会の流れに沿って、当日の様子をごく簡単にご紹介します。

まず開会の挨拶に続き、野沢研究所所長よりエリクソン教授の経歴等について、紹介がありました（エリクソン先生の経歴等については【プロフィール】参照）。



続いて、1時間ほどにわたってエリクソン教授の講演が行われました。（講演内容については【講演要旨】をご参照ください）



講演後は、フロアとの質疑応答の時間がとられました。「ソーシャル・キャピタル」の概念定義から測定方法、結果の解釈について様々な質問が出され、活発な議論が交わされました。



議論がつかないまま、終了の時間がきてしまいました。場所をうつしての懇親会の場においても、和やかな雰囲気の中、活発な議論が交わされました。

[\[BACK\]](#)